

2025年2月

CWS JAPAN NEWSLETTER NO.101

いつもCWS Japanの活動に温かいご支援、
ご理解をいただき、ありがとうございます

黒田裕子記念 アントレプレナー シップ賞授賞式に 出席しました

2024年11月29日から12月1日にかけて、神戸市看護大学で開催された第8回世界災害看護学会（WSDN）に、事務局長とともに参加しました。

阪神淡路大震災から30年の節目を前に、今回の学会では、CWS Japanも加盟するADRRN（アジア防災・災害対応ネットワーク）の協力のもと、被災者支援に尽力した現場のリーダーを称える「黒田裕子記念アントレプレナーシップ賞（Dr. Yuko Kuroda Memorial Award for Entrepreneurship in Community Resilience）」が新設され、栄えある初代受賞者として、片岡奈津子さんとタクチ・シェルパさんの2名が選ばれました。CWS JapanはADRRNのメンバーであることから、わたしたちも授賞式に出席しました。

黒田裕子さんについて

黒田裕子さん（1953-2014）は、日本における災害看護の先駆者であり、阪神・淡路大震災後に被災者のケアと災害医療の重要性を広める活動を展開しました。災害時の看護活動を体系化し、多くの後進を育成したことで知られています。また、2011年の東日本大震災でも現地の被災者支援に尽力し、避難所での医療支援や長期的な復興支援に取り組みました。



黒田裕子記念アントレプレナーシップ賞
授賞式に出席しました

from  **CWS JAPAN**
Church World Service

受賞者紹介

片岡奈津子（Natsuko Kataoka）さん

特定非営利活動法人そーる理事長。そーる訪問看護ステーションを設立し、訪問看護・訪問介護を通じて地域医療に貢献。2018年の西日本豪雨災害で事業所と自宅が全壊するも、被災地で地域に根ざした看護活動を継続。被災者の生活再建を支え、復興の最前線で尽力し続けてきました。

▼片岡さんの紹介動画はこちら



タクチ・シェルパ (Tackchi Sherpa) さん
2015年のネパール大地震の際、被災者支援に尽力。食料や水、衛生環境の改善に取り組むとともに、災害リスク軽減や包括的なケアを推進した。支援は緊急対応にとどまらず、地域に根ざした持続可能な復興の仕組みづくりにも広がり、多くの人々が安心して暮らせる環境を再建することに貢献しています。

▼[シェルパさんの紹介動画はこちら](#)



小美野事務局長が片岡さんを表彰する様子
©CWS Japan

現場に根ざした支援の大切さ

近年、世界各地で災害が多発し、被害の規模も拡大しています。復興は決して一朝一夕に成し遂げられるものではなく、長期にわたる支援が必要です。だからこそ、被災地に根ざし、地域と共に歩み続ける存在が必要とされています。

今回受賞された片岡さんやシェルパさんのように、現場で培われた経験と専門知識を活かし、被災者に寄り添い続ける方々に、わたしたちは心からの敬意と感謝を捧げます。こうした活動が広く知られることで、同じ志を持つ仲間が増え、より持続可能な支援の輪が広

がることを願っています。

残念ながら、今後も世界では災害が発生することが予測されています。そのとき、わたしたち一人一人にできることは何か——この記事が、少しでも考えていただけるきっかけになれば幸いです。

CWS Japanは、「たった一人のためにでも、世界をつなげたい」という理念のもと、地道な支援を続けていきます。

(文：プログラム・オフィサー

浜田由美子)

 皆さまのご理解・ご支援を心よりお願い申し上げます。

継続的な
寄付

今回のみ
寄付

現地でのキックオフ 会合に出席しました インドネシア出張報告

皆さん、こんにちは！CWS Japanの五十嵐望美です。先日、小美野事務局長とともに、2024年12月から新たにスタートした、インドネシアにおける「気候変動適応策の強化と技術支援によるコミュニティ災害レジリエンス向上（I-CREATE）」事業の一環として、一週間ほどインドネシアに出張に行きました。今回はその出張レポートをお届けします。

自然災害の多い島国インドネシア

今回の出張では、JICA「草の根技術協力事業」2023年度案件として新たに採択された「気候変動適応策の強化と技術支援によるコミュニティ災害レジリエンス向上（I-CREATE）」が2024年12月からスタートし、現地で開催される事業のキックオフ会合に参加するために、インドネシアの東ヌサ・トゥンガラ州を訪れました。本事業の詳しい背景や概要については、以下のnote記事やウェブサイトのプロジェクトページよりご覧いただけます。

▼note記事はこちら



▼ウェブサイトはこちら



今回の出張は、わたしにとって初めて経験する海外出張・初インドネシアへの渡航だったので、まずはインドネシアや訪問した事業地について少し紹介したいと思います。

インドネシアといえば、その国名の語源にもあるように、数多くの島々から構成されており、島国である日本とも共通した地理的特徴を持っています。（「インドネシア（Indonesia）」は、ギリシャ語の「indos（東インドの）」と「nesos（島々）」の二つの単語から名付けられたそうです！）そして、島の本数はなんと1万7,500以上もあるそうです。ちなみに、日本は1万4,125島ということで、意外と結果は互角でした。

また、インドネシアは自然災害が度々起きている国の一つであり、特に2004年に発生したスマトラ島沖地震では大規模地震が引き起こした巨大津波によって数多くの犠牲者/被災者と甚大な被害をもたらしました。他にも火山の噴火といった自然災害もある中で、今回の事業で取り組んでいる豪雨による災害リスクも、近年の著しい気候変動の影響で更に高まっています。



インドネシア地図©在インドネシア日本国大使館

事業地の東ヌサ・トゥンガラ州マラカ県においても、近年は雨季になると地滑りや洪水被害が度々発生しています。住民の方のお話によると、この地域では毎年のように川の洪水による浸水被害が発生することから、備え付けの大きな家具をあえて持たない家庭も多いと聞きました。今回の出張でも、ちょうど雨季の時期(10~4月)に訪問したことから、晴天の空が広がっていると思ったら突然雷雨が降ってくるなど、目まぐるしく変化する天候でした。

そんな事業地まで、事務局長とわたしは日本から向かったのですが、移動時間がかなりあります…！始めに、ジャカルタ/バリ行きの国際便でインドネシアに到着し、そこから国内線の飛行機でティモール島(西ティモール)

に移動し、そこからマラカ県までは更に9時間ほど車に乗ってようやく辿り着くという道のりでした！



青空であっても突然雨が降りだすので、水溜りやぬかるんでいる箇所が道の至る所で見られました。

©CWS Japan



東ヌサ・トゥンガラ州マラカ県はティモール島の中央に位置しており、隣接している島の東側は東ティモールという別の国になっています。©ResearchGate

キックオフ会合と現場視察

そして、現地では3日間にわたって開催されたキックオフ会合に、現地パートナー団体のスタッフとともに出席いたしました！




初日の県レベルでのキックオフ会合にて©YCWS

この事業ではマラカ県内の対象地域である13村をはじめ、村レベル/地区レベル/県レベルにわたる関係者を巻き込んで防災・減災に関するワークショップを行うことで、コミュニティ全体で災害リスク軽減の取り組みが持続可能的に行えることを目指して実施されます

したがって、今回参加したキックオフ会合も、それぞれ県レベル/地区レベル/村レベルごとに事業に関わる関係者が一同に集まって行われました。会合の様子は現地のローカルメディアの取材を受けて記事になっていますので、もしインドネシア語で読める方や翻訳しながら読みたいという方がいれば、ぜひ以下のリンクからご覧下さい。


〈ローカルメディアの取材記事〉

 TimorLine

・ [Pembkab Malaka Gandeng 4 Lembaga Sosialisasi Program I-CREATE Berkomitmen Tangani Bencana di Malaka](#)

・ [Sosialisasi Penanganan Banjir di Malaka-NTT, Sekjen CWS Jepang Takeshi Komino: Tiga Pilar Utama Ancaman Bencana harus Dilibatkan di semua Level](#)

・ [CWS Jepang dan Yayasan CWS Diterima secara Adat di Malaka-NTT](#)

 TimorMedia

・ [BPBD Malaka Minta Desa Yang Terdampak Bencana Banjir Kali Benenai Lakukan Hal Ini](#)



初日の会合のオープニングでは、子どもたちによる素敵なダンスパフォーマンスも披露されました！

©CWS Japan

それぞれのキックオフ会合では、マラカ地域の防災・減災計画にどのようなことが課題として挙げられ、これから議論できるかについて、現地パートナー団体のスタッフや関係者の方々からのプレゼンテーションがあり、参加者からの質疑応答を交えながら、問題意識の共有が図られました。



会合後に、関係機関の地域開発計画庁(BAPPEDA)の
オフィスに訪問し、事業について意見交換を
行いました。©YCWS

また、この地域で毎年のように起きている洪水被害の発生ポイントであるベナニン川沿いにも訪れ、住民の方からこれまでどのように洪水が起きてきたかを伺いながら、現場視察も行いました。



最近、茂みにワニがいるということで、
近づかないよう注意しながら視察しました
©CWS Japan



それぞれの会合では、この事業に関わるパートナー団体や関係機関の方々による署名も行われました。
©CWS Japan



キックオフ会合後の、現地パートナー団体との
スタッフ会議にて©CWS Japan



村レベルでのキックオフ会合の様子©CWS Japan

初めてのインドネシア出張を終えて

今回の出張を通して、事業に関わる地元の関係者の皆さんや住民の方から、この事業を通して防災・減災の取り組みを強化していくことへの大きな期待と熱意がとても伝わってきて、熱心にその想いをお話しされる様子が印象的でした。これから本格的に事業がスタートしていく中で、この事業に関わるスタッフの一員として、わたしもますます頑張っていかなければ…！！と多くの刺激を受けた出張となりました。



会合が終わった後、輪になって一緒に
ダンスする場面も©CWS Japan

この事業は3年間にわたって実施される計画となっており、今後も年に何回か出張の機会があるため、定期的に進捗報告をお届けできたらと思います！

(文：プロジェクト・オフィサー

五十嵐望美)

土木と国際の接点

高田陽太(インターン)

はじめまして。2月からCWS Japanでインターンを始めた、東京大学工学部社会基盤学科3年の高田陽太です。今日は自己紹介とインターンを始めた経緯について書かせていただきます。

社会基盤について

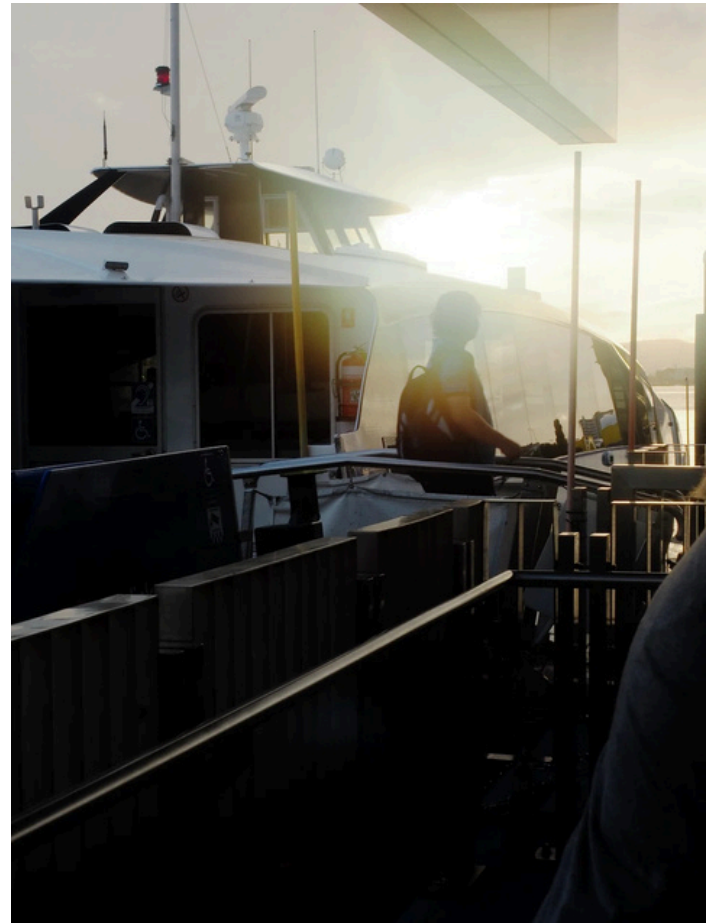
わたしが在籍する社会基盤学科は土木系の学科ですが、その範疇（はんちゅう）はいわゆる土木にとどまらず、インフラに関連する事柄を幅広く学びます。大学で学ぶうちに、段々と自分は具体的な技術に興味を持っているのではなく、「人々の暮らしを守れる社会とは、社会に対して自分がどう働きかけるか」といった方向に自分の思いが強まっていることを感じました。

中でもキーワードとして、「国際」という観点がありました。インフラは経済開発の基礎であり、さまざまなインフラ投資がODA（政府開発援助）などの形で行われているからです。

海外に出て気づいたこと

とはいえ、わたしは大学に入るまで日本を出たことがなく、海外に対しては漠然とした遠さを感じているだけでした。海外を経験しておくことも必要だろうと思い、これまでに大学のプログラムで海外に行く機会を2度得ました。

そこでさまざまな経験をしましたが、国境を越えることはわたしが思っていたより大きなことではなかったというのが正直な印象です。より正確に言えば、そこにある気候や食べ物、文化もすべて違うけれども、それでもそこには自分と同じ人間がいて、そこで暮らしを営んでいます。国が違って、そこに住む人に共感することができます。国や地域ごとの特殊性と、人間の普遍性が共存するという、当たり前ともいえる事実気づきました。機会を見つけてもっと長期間海外に滞在したいと思っています。



オーストラリアで、CityCatという船の都市内交通機関に乗りました。船員さんがとてもかっこよかったです。

土木と国際

日本では自然災害が頻発しますが、災害に対して脆弱な人は当然日本の外にも多くいます。災害は貧困と関連が深いとされ、災害によって生活基盤に被害を受けると、暮らしを再建することが難しく、貧困から脱することが困難になるという問題が指摘されています。



ベトナム・ハノイの鉄道から見た風景。
背後のビル群と手前の住宅との間で
歴然とした住環境の差を感じました。

この点において、わたしが専門として選んだ土木と、国際というキーワードがつながる気がしました。その視点を持って探してみると、さまざまな団体が国際的な災害支援を行っていることを知り、その内側を知りたいと思い、CWS Japanのインターンを始めました。

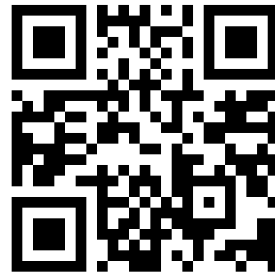
現在、インターンとして、アフガニスタンでCWS Japanが行っている防災事業について学んでいます。事業内部の資料も読ませていただき、非常に興味深いです。そこでもやはり、特殊性と普遍性があって、現地の文化や慣習、社会状況に応じて計画を練る必要がある一方、通底する理念や共通する手法があることを感じました。特にアフガニスタンでは、防災事業においてコミュニティが担う役割が強く、住民自身の声によってより上位の計画が動いていくようです。日本における感覚とはかなり違ったものであり、そこに新鮮さを感じました。それと同時に、日本で行われているような、ある意味行政に任せた防災事業の問題点を突いているような気がします。

まだまだ不勉強ですが、事例を通し自分の価値観を豊かにしながら学んでいきたいと思えます。

(文：インターン 高田陽太)

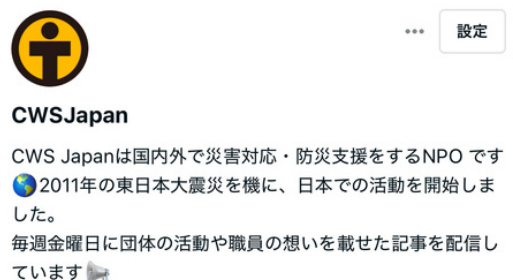
さまざまなSNSで 情報をお届けしています

CWS Japanでは各種SNSで、日ごろから情報をお届けしています。お好きな方法で最新情報をぜひチェックしてみてください



各種SNSは
[ここをクリック](#) or
QRコード読み込み

認定NPO法人CWS Japan @Japan_CWS · 3分
\ネパール料理講座と、読み聞かせ&ウクレレ演奏を開催| 2月のコミュニティ・カフェ@大久保 / 新宿区・大久保地域にて月2回オープンしているコミュニティ・カフェ@大久保ですが、外部での初めてのコラボ企画など、2月もさまざまな催しを行いました！



ネパール料理講座と、 読み聞かせ & ウクレレ演奏を開催 2月のコミュニティ・ カフェ@大久保

皆さん、こんにちは！CWS Japanの五十嵐望美です。厳しい寒さが続いてきましたが、春の兆しも感じられるようになってきましたね。

今月もコミュニティ・カフェ@大久保では外部での初めてのコラボ企画など、さまざまな催しを行いました！そんな2月のコミュニティ・カフェ@大久保のレポート記事を、お届けします。

大久保地域センターとの初コラボ企画！ネパール料理講座

2月2日(日)は大久保地域センターとの初めてのコラボ企画として、大久保地域センター管理運営委員会による新規事業「世界を知る・世界を味わう講座：ネパール編」にCWS Japanが協力させていただき、「そばがきでネパールカレーを味わう！」が開催されました。

外国人住民の講師による料理教室を地域センターが主催したのはおそらく初めてということで、カフェのイベントにこれまで参加してくださった方や今回の講師であるジワンさんが経営するネパール料理店ソルティカージャガルの常連客、地域センターの利用者など、さまざまな顔ぶれが集まりました。また、ジワンさんのご親戚や子どもたちなど、一家揃っての応援参加もありました。



大久保地域センターの大きな調理室にて、料理教室を開催しました！ ©CWS Japan

今回の講座では、カレー2種（チキン+ベジタリアン）に主食はDhidoというネパールのそばがきを4つのグループに分かれて調理しました。メニューのおおまかなレシピは用意したものの、調味料を入れるタイミングも分量も大体が目分量なのがネパール流。グループによって、調理スピードも辛さ加減もまちまちの中、参加者の皆さんがその都度講師に確認して味見しながら進めるというとてもユニークな料理教室でした。



カレーは野菜やじゃがいもなど具沢山！ ©CWS Japan

最後はジワンさんとネパールに関する質疑応答時間を持ち、料理を通してネパールを知り、ネパール文化を理解するユニークでにぎやかな料理教室を楽しみました。

大人のための読み聞かせとウクレレ演奏

2月19日(水)のカフェでは、大人のための絵本のお話会と、カサブランカの皆さんによるウクレレ演奏をお楽しみいただきました。

これまでのカフェ企画でも何度か登場していただいた大人向けの絵本の読み聞かせでは、今回は「愛」をテーマに『ゆきおんな』、『あいたくなっちゃったよ』、『あなたをずっとずっとあいしてる』の三作品を楽しみました。どの作品も親子間の愛を表現した物語で、読み聞かせと合間に流れるBGMやウクレレの音色によって心も身体もほっこりと温まるようなひとときでした。



ウクレレ演奏とともに、三作品絵本の読み聞かせをしていただき、絵本の世界観に引き込まれました

©CWS Japan

後半はウクレレ愛好会のカサブランカの皆さんに登場していただき、ハワイの曲や昔懐かしい日本の曲を、時にはフラダンスを交えながら演奏していただきました。温かいウクレレの音色に合わせて一緒に歌う場面も見られ、更にリラックスして楽しむことができました。



フラダンスも披露していただきながら、歌とダンスでハワイの雰囲気と一緒に味わいました©CWS Japan

当日は冷たい風の吹く日で、お越しくくださった皆さんも寒さに震えていましたが、心身ともに温まる時間となり、楽しんでいただけた様子でした。

3月のカフェ企画のお知らせ

3月のカフェは、通常通り、第1・3水曜日(5日、19日)の営業となります。

3月最初のカフェでは、昨年10月に開催したWeekendカフェの続編として、「難民等生活者のライフステージと日本語学習ケーススタディ2」を行います！

日時：毎月第1・3水曜日 13:00-17:00
場所：日本福音ルーテル東京教会
東京都新宿区大久保1-14-14 (JR新大久保駅から徒歩5分)

3月の予定

営業日	イベント企画
3月5日(水) 14:00-16:00	難民等生活者のライフステージと日本語学習ケーススタディ2
3月19日(水) 14:00-16:00	ミャンマーカフェ〜国境の町タイ・メーソットからの最新報告〜

※イベントの内容・日程は事前のアナウンスなく変更する可能性がありますのでご了承ください。

最新情報はSNSでお知らせしています！

QRコード: COMMUNICAFEST2023

コミュニティ・カフェ@大久保では、2023年からカフェの活動とともに難民申請者生活支援の一環として、無料の日本語学習支援を開始しました。不安定な生活を強いられる当事者が学習を継続するにはさまざまな困難があり、わたしたち支援者も変化に対応すべく試行錯誤を繰り返しています。今回もゲストにHORIZOPIC代表・和田貴子さんをお迎えし、お互いの経験を共有し、学び合いの時間を持ちます。日本語教育や難民支援、多文化共生の分野にご関心のある方は、ぜひお越し下さい！

難民等生活者のライフステージと日本語学習ケーススタディ2

コミュニティ・カフェ@大久保では、2023年のカフェ活動開始とともに難民申請者への生活支援の一環として無料で対面・プライベートレッスンによる日本語学習支援を開始しました。不安定な生活を強いられる難民申請者が日本語学習を継続するには様々な困難があります。私たち支援者もそれぞれの学習者の生活ニーズやキャパシティに合わせ、試行錯誤を続けています。今回の企画は、昨年10月に開催したウィークエンドカフェの続編になります。未経験者でもご参加いただけますので、一緒に学び合いの時を持ちましょう。

ゲストスピーカー 和田貴子さん

HORIZOPIC代表
さぼろと21主催
文部科学省現職日本語教師研修プログラム普及事業
「難民等対象の日本語教師初任者研修」研修コーディネーター・講師



日時

2025 3/5 水
14:00 ▶ 16:00

会場

日本福音ルーテル東京教会

東京都新宿区大久保1-14-14
(最寄り駅：JR新大久保駅、
100円ショップCan Do並び)



こんな人におすすめ

日本語教育 難民支援 多文化共生

これらの分野に関わる、
または関心がある市民・学生・研究者など

予約
不要

参加費
無料

この事業は文化庁「生活者としての外国人」のための特定のニーズに対応した日本語教育の委託事業です。

主催：コミュニティカフェ@大久保
問い合わせ：CWS Japan 牧 (03-6457-6840, public@cwsjapan.jp)



そして、3月19日(日)には、わたし・五十嵐も先日参加したコース向けのスタディーツアーにて、タイとミャンマーの国境の町であるメーソットを訪問した報告会を兼ねて、ミャンマーカフェを開催いたします！

ミャンマーで国軍によるクーデターが発生してから4年の歳月が経つ中、ミャンマー国軍による空爆・迫害から逃れて国境を渡ってきた人が多く住んでいる地域を実際に訪問し、現地の方との交流を通して感じたことを、同じ時を過ごした他のコースとともに分かち合います。また、CWS Japanでは現在もタイ・ミャンマーでの避難民支援事業を行っていることから、ミャンマー避難者が置かれている状況や現地の声もお届けする予定です。ぜひご関心ある方はご来場ください！（どなたでもご参加いただけますが、当日受付にてお名前とご連絡先を頂戴します）

ミャンマーカフェ

～ 国境の町タイ・メーソットからの最新報告～
「ミャンマー避難者の現実を知る」

2025/3/19(WED) 14:00~16:00
@日本福音ルーテル東京教会
(東京都新宿区大久保1-14-14、JR新大久保駅から徒歩5分)

参加費無料・事前申し込み不要 ※当日受付あり

2021年2月にミャンマーでは国軍によるクーデターが発生しました。それから4年ほどの月日が経つ今も、内戦状態が続くミャンマーの市民社会ではさまざまな困難が続いています。国軍による空爆や弾圧・迫害に苦しめられている人々を支援する動きが、ミャンマー出身者が暮らす日本国内でも活発に行われています。

今回のミャンマーカフェでは、今年の2月末にミャンマーから国境を越えて逃れてきた人が多く住むタイ/ミャンマーの国境の町メーソットを訪れたコースが、そこで生きる人々との交流を通して感じた経験を分かち合う場を持ちます。また、分かち合いの場では、ミャンマーから逃れてきた現地の声をお届けします。

主催：コミュニティ・カフェ@大久保
問い合わせ：CWS JAPAN 牧・五十嵐
(03-6457-6840) PUBLIC@CWSJAPAN.JP

3月になって外出やお散歩を楽しみやすい気候にもなってきましたので、ぜひご都合つく際はコミュニティ・カフェ@大久保にお立ち寄りください。

(文：プロジェクト・オフィサー
五十嵐望美)

コミュニティ・カフェ@大久保の各種SNSはこちら。
[Facebook](#) / [Instagram](#) / [X\(旧Twitter\)](#)

特定非営利活動法人CWS Japan
〒169-0051
東京都新宿区西早稲田2-3-18
日本キリスト教会館25号室

メールアドレス：
public@cwsjapan.jp
電話：
03-6457-6840



[CWSJapan](#)



[@Japan_CWS](#)



[cws_japan](#)